

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム燦燦とざわ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	山形県最上郡戸沢村大字津谷字鞭打野2096-1
記入者名 (管理者)	山科 八重子
記入日	平成 19年 7月 31日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>平成18年4月より地域密着型施設としての役割を果たすべく、今年度の理念の見直しを実施従来の理念「一人一人の尊厳を大切に」をもとに地域の方々との交流も取り入れ「一人一人が楽しかった」と感じてもらえるように介護職員一同実践している。</p>	<p>地域の祭りに参加したり、また地域の方への参加を呼びかけてのミニサロン(月1回実施)燦燦夏祭りの案内配布、創立記念への招待など、随時行い参加していただいている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を良く理解し、一人一人にあった対応に向けて日々実践している。</p>	<p>個別ケアの実施。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>行事を通して地域の方もホームに招待し、地域密着の意義を理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的に散歩を通して挨拶をし合ったり、また暑い日には「お茶を飲んで行ってください」と声をかけている。また近隣の方より収穫した野菜を頂いたりして、気軽に立ち寄ってもらえるように努めている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の行事には参加したい皆を役場に伝え、行事があると声をかけて頂いたり、またホーム前を通る中学生には朝・夕見守り隊として学校より許可をいただき声をかけている。</p>	<p>敬老会への誘いや、公民館で実施される行事に招待して頂き参加している。また近くの施設の行事にも参加している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	戸沢村は高齢者率30.4%だが、それぞれ健康維持に取り組んでいる。その中で一人暮らしの高齢者も多い為、家庭的な雰囲気を味わってもらえるようにミニサロンへの参加を呼びかけている。また9月には認知症を正しく知ってもらえるように村と共同で勉強会を実施予定。		地域の方との交流する機会を増やし、もっと地域の事を理解し貢献できる事を実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に一回職員ミーティングを実施、それぞれテーマを持ち寄り勉強会を実施。又自己評価も行い、ホームの改善点を見つけより良いサービスを提供できる様に話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回というのは維持されておらず、反省点であるが運営推進会議で出た意見などを職員へ報告し改善する事が出来た。	○	2ヵ月に1回の実施が出来ない為(参加者が少なかった為)、今後は運営推進会議の開催についても一度話し合う予定である。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連絡調整会議等で村内の施設の情報交換を行ったり、包括支援センターとの連絡を密に取り合い指導していただき質の向上に努めている。」		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し、知識は得ているが現在必要とする利用者不在の為活用していない。今後は必要に応じ活用し支援していきたい。		管理者自身もあまり理解できていない所がある為職員全員で学ぶ機会を作りたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束による身体機能の低下や高齢者に対する虐待など絶対あってはいけないと常に話し合い見守り重視の体制で全員同知している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書をよく解読にいただき、不安のない様な状態で入所していただいている。又、入所前に施設を知ってもらえるように御本人より見学いただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情等ないか常に寄り添い話を聞くように努めている。又上記聞かれた場合対処するようにしている。	話やすい雰囲気作りを心掛けている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話などで随時家族へ報告している。又月1度は手紙を通して日々の暮らしや状況を報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時など意見を頂くようにしている。また玄関の上に苦情箱を設置している。	○ 今後は家族会等立ち上げていきたいと検討中です。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日申し送り時や申し送りノート、月1回のミーティング時に意見や提案を聞く機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	連絡体制を作り、すぐ対応できるように出来ている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との信頼関係をくずさない様丁寧に説明し、構築されるまで周りでカバーしあい、なるべくダメージを少なくするように努めている。	2回の職員交代があったが、思ったよりもスムーズに交代できたと思います。」

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交代で研修に参加する機会を設けたり、又学んだ事をホームに戻り再度勉強会を実施している。又、交換実習にも参加しており学んだ事を実践できるように努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換実習等を通して交流をできる様に努めているが、まだ足りない足りないと思う。	○ 全職員にも他のホームを見学し学んでほしいと思う。今後はネットワークを広めていけるように努力したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事に影響するストレスは作らないよう軽減できる環境を努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現在の状況に満足し歩みを止める事がないように(自己満足)、又馴れ合いの中での仕事がない様に常に向上心を持って働ける環境作りにつとめている。	毎月1回それぞれのテーマを当番で持ちより勉強している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御本人様が今何を望んでいるか、どうありたいのかをよく傾聴し、第二のホームになるべく信頼関係の構築に努力している。	○ 家族の意見が強くなりがちな為注意し、本人の心を受け止めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いもしっかり受け止め、家族関係の維持をh駆りながらお互いに良い方向に行くように努めている。	家族の思いを受け入れすぎ御用間介護にならないように注意している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の実情や要望をもとに、その時点で今何を必要としているのか見極め対応している。他のサービスとも十分連携を図っていけるように努めている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム内に馴染みの用品を持ち込んでいただいたり、入所前にホーム見学に来ていただいたりして安心が得られるようにしている。又慣れるまで面会などを多くし安心感を与えられるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から学ぶ事も沢山あり、話を沢山聞くようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時の交流など大切にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の方がより良い関係が築けるよう支援し、近況報告を面会時・手紙・電話にて報告し本人の状態を把握していただいている。	○	家族の方が定期的に面会来て頂けるように努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来てくれたり、家族が外泊へ連れて行ってくれる時もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人が好きの方もいますが、親しい方同士話をしたり、皆で話をしたりし盛り上がっています。しかし、まとまりに掛ける部分も見られる。	○	一人一人の個性が強いので口論トラブルになるときもある為、きちんと間に入り対処していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了しても面会へ言ったり、家族の方がホームへ顔を出してくれたりしている為とても嬉しく思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人のペースに合わせた生活を追求していますが、もっと希望や意向を把握していきたい。	○	「集団生活だから」と我慢している部分があったりする利用者もいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握できている。又、面会時家族の方が色々話してくれる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日一人一人の状態を把握出来るように努めている。申し送りやケース記録にもきちんと記録し職員全員が把握出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の方へは介護計画に目を通して頂き、意見や同意を得ている。	○	今後はカンファレンス等への参加も促していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアチェック・モニタリング・アセスメントをしっかりと見直しを行うと共に、状態に応じ変化があった場合新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気づき等個別に記録を記載し、変化が見られたらその都度対応を考えたり、場合には共に喜びより良いケアに向けて情報を共有している。		日々の申し送りやノートを活用し情報を共有できるようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	地域の方より協力いただき定期的なボランティアの導入、ミニサロンを通しての交流などホーム内にこもる事なく、常に外に目を向けるように心がけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	入所後も担当のケアマネジャーと切り離す事ないように随時訪問を依頼したり、必要に応じて他のサービスも利用できるように連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	他市町村の地域包括センターに協力を依頼する事はまだないが、常に連携を図り個別支援出来る様な体制作りはできている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な通院の他に月1回協力医療機関の医師より往診していただき、それぞれの状況に応じ薬の処方や大きな病院への受診等促していただいております、入居者の方や家族の方も安心しているようです。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		自己判断しないように24時間連絡体制がとれるようにしている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	家族の希望は最後まで住み慣れた環境を望まれているは、現在では事業所の方針としては困難と考えている。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		対処後も本人の面会に行ったり、手紙を書き、変化等見られたら本人への対応の助言を行ったりしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>個人に関する情報を守る為職員、パート職員一同契約書に署名捺印しプライバシーの確保を徹底している。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>個別ケアに力を入れており、本人の希望を取り入れホーム外で一日楽しく過ごしてくる機会を設けている。信頼関係構築に繋がりますように支援できるようになっている。</p>		入所も長くなるとそれぞれ個性も強くなり不満を訴える事もあり、どこまで希望を叶えるべきか思案中です。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>一人一人の生活パターンを把握し日々の暮らしがその人らしいものとなるように支援している。あくまでも利用者のペースに合わせる事を重視するようにしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>入所者に声がけて一緒に衣類の準備しており、本人の好みも重視している。又、理・美容室も本人の好みの所に行ける様に支援しているが、車椅子の方にはホームに来ていただき行っている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>嗜好調査を行い、嫌いな物の献立の時には代替食品を提供している。又、常時毎にバイキング方式にして食事を楽しんで頂けるように心がけている。また、声かけも一緒に行っている。</p>		栄養バランスを考え、時々栄養士よりカロリー計算をしていただいたり。助言を頂いている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>たばこは危険もあり禁止としているが、お酒などは人に応じて週1回本人の飲みたい物を提供している。又、行事の折飲酒できる機会も設けている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入所時オムツ使用3名いたが、排泄パターンを知りオムツはずしに成功し、現在全員トイレにて排泄していただいている。ただ危険防止のために夜間のみPTイレ(1名)使用中。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は女性、男性の日と決めており、体調により臨機応変に対応している。本人の楽しめるような支援を行っている。	○	現在フリーな入浴は行っておらず、やはり職員の都合が若干入っている。入浴は更なる検討が必要と思われる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜眠れない入所者には、不安を取り除く為に側についていたり、一人一人の体調観察を行いその人に合わせてゆっくりと対応しゆっくと過ごせるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「人生のあゆみ」を通し、本人の趣味や好きな事が継続して出来るように支援しており、今までに近い生活環境を提供できるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人で管理できる人はなるべく自分で管理し買い物などを行っている。又、出来ない人は家族より預かり個々に出納簿を作成し領収書を貼り付け、家族より確認して頂くようにしている。		移動スーパーをお願いしホームで買い物出来るような支援も行っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その方の希望に応じ、散歩や買い物など出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	命日の墓参りや自宅等本人の希望を聞き、家族へも協力を依頼し出掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時家族に電話を入れたり、携帯電話を使用し朝・晩の挨拶をかわしたり、季節ごとの手紙を出したり支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族の出入りは自由で気軽に訪問できる雰囲気作りは心がけている。又、面会時は湯茶の接待もあり職員も明るい笑顔で対応するようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が認識し、身体拘束のないケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	常に玄関は解放しており、地域の方も気軽に出入り出来るようにしている。又、ホーム周辺を比較的自由に散歩も行っている為地域の方よりの見守りも出来つつある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の行動を拘束する事のないように寄り添うケアを行い、安全を確保している。又夜間も巡視を通し状況確認できるように配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自身で保管出切る人は預かる事なく、さりげなく確認しながら本人に任せている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急対応の講習も受講しており、またそれぞれに応じてマニュアルも作成しており、事故防止に努めている。	○	完全とは言えず今後も課題の一つと思われる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回救命救急士より、指導を受け勉強している。又看護師により応急の手伝いについて勉強会を定期的実施している。	○	開所3年になるも、まだ急変や事故ない為勉強がその時発揮できるのか心配である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの元、避難訓練を実施し指導助言をいただいている。ただまだ地域からの応援体制作りまではいっていないが、今年中に実施予定している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族に状態を把握していただき、リスクについては常時説明し理解をいただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い体調管理を行っている。また異変見られたら早めに対応し大事に至らないように努めている。日々記録もしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	鍵のかかるロッカーへ個別に管理し、医師の指示通りに服用できるように支援している。さらに投与薬は毎食時御本人の前に置いたり、手渡しして服用確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給と運動・散歩・歌を歌いお腹の中から声を出し、腹筋を付けるようにしている。又、食品による調整も取り入れる。	○	体を動かす事がまだ不足している為今後も工夫していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きは1日3回義歯の洗浄はできる限り自分でやるように見守りしているが、困難な場合は支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みやDrの指示も職員周知し、その人に合わせた献立を作成し提供。またその都度食事量・水分摂取量をチェックし確保に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する取り決めがあり、インフルエンザの予防接種、手洗いやうがいの励行に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒や台所用品の衛生管理を徹底している。食材も新鮮な物を提供できるように、その都度買い物に出かけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には鍵をかけず解放しており、ホームの周りには地域の方より提供していただいた花を植えている。自由に出入りできる環境作りとなっている。又ベンチ等を設置しつかれたら自由に休めるように配慮も行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	同じフロアの中に共有の空間が広く確保し、茶の間の雰囲気や空気を漂う空間となっている。一人一人がそれぞれゆっくと過ごせるように季節に応じた装飾も施している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所が定着しており、会話と楽しみながら過ごしたりテレビを見て過ごしたりと思い思いに過ごせるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	使いなれた物の持ち込みは少なかったが、その方が生活し やすいよ環境整備は行い、居心地良く過ごせるような工夫は 常に行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	風通しの良い造りで温度調節もその日に応じてこまめに 行っている。又天窓をつけ自然の採光を取り入れ、光に対す る心遣いもできている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	手すりはすべての要所に設置され、ホーム内はすべてバリ アフリーとなったおり移動しやすい造りになっている。又いつ も綺麗にし安心して暮らせるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	それぞれの場所への表示や居室へは色々な形のネームプ レートを貼る等の工夫を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関脇に畑を作ったり、野菜を収穫したり、草むしりをした り、花を眺めて一緒に楽しんでいる。又ベランダで日向ぼつ こをしたり、バーベキューを楽しむ事もある。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人一人の希望や状態を常に把握し、今何を望んでいるのか、どうありたいのかを知り希望に添えるようなケアに心がけている又本人の言いなりになる事なく出来る所は自分で行い継続して自立できるように支援しています。またホームにこもる事なく地域にも出て行ったり、ミニサロンを通して地域の方との交流も大切にしています。「毎日が楽しかったと思えるように。」をモットーに現在前進中です。